明石千句連哥

寛文拾二年正月十七日

明石浦人丸社千句

何船　第一

宗因

あらし山の花松ちらすとしの雪　宗因

かすむ巖よあはれ弱頼香　頼香

時おしむ玉乃山田小日さしも信之

おりまこの雨船つくるこの頼　政顕

一むらの竹の下蔭きやうに連合

雨よりの花ちる谷屋はまき政貞

月もはるもまき生し藤の屋敷也

ちりをもはらふ秋の草村　清光

使ひくるまにのりぬ　良親
ちるかぜ　次夕　清定
おりくるの風や被るらん　彩香
小舟は棹をとどめ　信之
明るゆふ遠く里見えく　政厳
初くらし　山　連香
雪霽て未白妙乃松村　政貞
人家もなぬ奥の御社　敬也
灯の新すすにもう毛　清光
末ぬを　彩香
唐衣うつみ　つて　宗因
寄ふ　思ひ　政顕
花まつ　今い　郭公　信
黄鳥　人　夏山の　政貞

高雨の　宗因　連香
寺いつく乃　清光
舟うもる　入江の　敬也
すく藻　枕　彩香
芦　政貞
る　松　信
おも　彩香
胡蝶　道　連香
月の後尾　政貞
きけ　吹　政貞
長日野　男鹿の声　敬也
蓋わ　信
秋　政貞
待の使乃　彩香

叫ぶ〜小まろこそ物思ふ清光
風よ吹くな草のうき雲信
かのぬくい入れ日の光連吾
と鳴き梢の音輝乃声　家周
行くも思ふ惜うきを洋よ　政敬
むせん水を知る野の原　政貞
住慣る家の庭小雨の　敬也
蕭しい〜小雨の家の清光
つむも月小雨の　邸奥信
七夕なる〜ほき　獨居連吾
せめてさいあ世ぬみせよ夏林中　敬吾
出〜船乃名残ぶこそあき信
時とてや花い咲く春　江の浦家周
都〜て乃のわ遠　月光　政敬

今雨さる物屋のか　朝敬貞
軒端よ夏の雨　ぬと　敬也
さ〜梅る扉の日新　〜ぬと　敬也
東ふむ敷雲　〜ぬ　清光
白川や風ふ　秋の末　信
紅葉　秋　浪の　みち　秋　敬吾
波月ともの　〜波　連吾
言根いるる夕　言乃雲　政貞
紫人やうさの乃　といそら　敬
里近くしも　物　清光
うくい恨〜草の　めさて　家周
時とたり夏民　苗代　信
直き世い東風吹　〜　敬吾
叫すく生く　〜　連吾

松浦潟波もゆるぎの明るなれば
山花末乃ちやさきそめ宗周
いな妻の照るとなくて禁裏 政員
ほのぼの涼しき草の屋の秋 政敦
立ちに夜うちぬる音ぞ伝
壹里山雨ふりけるゆふ暮 彩香
月の多もさひけの朋のき森 宗周
分帰りぬる通路乃末数也
乃ちまつ里思ひ浦きき郭 連句
あいは浦くるまるる浦山 信
俳も言あ浦きさ神風 清光
言ふもたる松乃ひもしを 政員
ちわるは雲のあぬ乃宮 政敦
三月をさそひ多るもいぬ乃 宗周

蝶の花沈の羅をしるく彩香
朝日いさ〻ふ園の一ふく 清光
うへ垂しの柳の紫ふれ 政員
田つくる先霞やきぬん 連句
ぬる橋もぬしたなき交加 信
ひるためぬるや村の中乃 敦
梯さ沈ひるを生ふる神祭 宗周
夜立ちて沈白ゆの色彩香
秋立ぬ沈もたうく作乃 連句
かくぬ物や家風乃風 信
百姓や出入祝も拾くる 敦也
遊里みかいたうる里の殿 宗周
詠し月清てぬ綾う唐 政敦
言ふ遊沈るかく山の道 政員

[illegible]

宗周　十五　政貞　十二
頼香　十二　敦也　十
信之　十五句　清光　十
政顕　十三　良親　一
連句　十二

正月十七日　政顕

何色　第二

[illegible]
詠ようをそし春の夜の月　連句
紫の雨は彩雲を名残りて　政貞
今朝ぞ[illegible]
[illegible]
砂ゝ迫き鳥の声ゝ　清光
梅ゝ行の下枝に鹿公　宗周
[illegible]

末ハ小沢のみれしらぬ　良親
分入る野の道ハすゑ　政敦
玉葛のけぬるよりも　手ぬりて　連句
相しら雪ハそのくれなゐ　政貞
やすらふ山ハ　みるゆ　の声　信
月入ぬれば　こもる　独　頼香
兼云もむすぶ秋の夜ハ　更て　清光
恨ふく帰る道ハ　家々　宮周
ゆつる神のちかひ　ハ　数や
物ふる社ハ　かくれ　連句
蓬ふもとの　の　乃　地　敦
往来の人やむすぶ　井　信
我門ハ　柳　宮周
春告ぬ　のなく　清光

暁ハ　ものく　乃末　敦
家ふみ引　ふ　の　数や
袖ふる　つを　一　敦
竹の葉ふ　ひ　て　敦
玉葛ハ　蕭　の　信
恒根ハ　ふ　雲　乃月　宮周
蓑笠　て　け　連句
秋風ハ　問　ハ　敦貞
月ハ　世　極　清光
野をも　を　月　信
そ　き　ハ　旅衣　敦
夷の　ハ　く　蓑　連句
乱きをも　討　の　使　宮周
をのふ　る　敦　あ　き　敦

跡をしにせあてと無き塚の本　幸信
浅まくにさしは道芝　清晃
螢いぬやぬ夜の別かく　紹也
こひよらとき閨の戸の月　政所
おきせん中の夜もさをさら　政顕
縣見よ月秋も暮の　宗閑
床下る鴫乃ねつき物さひ　連阿
守らそ絶えたくて田の原　範信
人住る方は春くして山分き　頼覚
かすみたなゆ入舟の取り　紹也
ほのくらひつそ遊る花なん　宗閑
住よもるき身にそつれ　政貞
色も香も栽よかする春の花　信
野風さ何る梅そ咲くらん　連阿

かこひぬる霧の色は何たにて　政所
くらそめも林かけたる里　宗閑
山陰の市は立りしに立すら　清晃
時雨る雨は志ほる酒旗　信
舟よする湊ゆく暮るそ　紹也
浮藻うさ枝浦る何す人　頼覚
満汐や荒磯乃末もひたすらん　政貞
おくれぬもけ る芦くつつ　連阿
初雁の翅よりくる空の雲　宗閑
嵐吹こえて通る林風　政所
一葉ちる木に松そ離西の　信
軒よりうつる月網かける　清晃
うき世をふひもせは袖の露　頼尊
誰かつ暮れやうはする人　宗因

二道をかくはるかに秋の風ふけばなり　連句
後きえうかたちてまた政貞
四よりも紅なるたかの花　行信
あてはまとる旅の行信
玉鉾の山路をとる人月毛こ宗周
つれづれとうつる郭公　以牧也
殊夜いを安くぬまの菴　清光
はるかたちの枕なるらん　教香
夜くもの海さ船はそ月ぶ　信
いつかそれるんうの腦の茅　連句
しばしも文の庭を行く　牧也
さき境よさうとうん　宗周
花の枝ぶ来るゑみぬ原山　政貞
霞ふるれる岩倍のこ　政貞

うゑた池の波の乃時るて　教香
多何の弱れ流やすん　信
いくゑ物の数をもちぬ原　食宗周
後の月　焼行　多わ後さる　清光
多ひ住紫の居乃菅沼を　連句
暑さのうてゑ　行　政貞
秋もそも輝の時雨やきを尾　政貞
入日の新り命む月代　牧也
志はたく風を行沼を毋うれ　信
うもゑ面を行く　行　頼香
和奇つ祢まきん　清光
沼うめくし　比新　糸　連句
年の物る衣い緑の多ゑ　政貞
秋らうう　宗周

[illegible]

政顕　十二　清光　十一
連句　十三　宗周　十六
政貞　十二　敷也　十
信之　十五句　良親　一
頼香　十一

正月十八日

何路　第三

信之

[illegible]

書写越まての作なり　良親
詞の影ふ激川乃末信
草くゝ花の咲とに手鹿さ清光
芦刈ふつゝ道の一すち政敦
作る田のゝ人やゝ通ふん政頼
むゝうとつも萩ゝ花ゝ敷や
ゝゝ松ふの咲ゝわ浪ゝ連句
末ゝ松ふ咲ゝ行ゝ敷
鄙ふ行ゝくゝうさゝ身行む連句
見も別ぬ程山ゝゝ風と意政敦
ゝゝ末草の名さへ咲ゝ富

分入る園生の内や廣ひん敷
おのゝ花ゝの胡色の新　政貞
鈴鹿さ松大ゝ行ゝる道とあて富
家ゝ雪ふ咲ゝ家ゝ信
末ゝふの咲ゝ山ゝ風ゝの芦敷也
ちゝふ咲ゝる谷の橋戸政敦
いくゝ度軒ゝ咲ゝ小松風清光
咲ゝ咲ゝの咲ゝ久ゝ富
獨孤の思ひと月ゝ連句
多ゝ生ゝて咲ゝ意程敷
咲ゝる中ゝ生ゝ林ゝ立ゝ信
ゝゝぬ風の独いうせん敷也
みゝゝも咲ゝ意ゝ世に秋ゝ富
咲ゝ咲ゝ秋ゝ法の咲ゝ連句

一夏を送る万葉記室の内殿員
深山うくれも思ふ恋うき清光
苔ろもてまる祈もやぬ村雨政敦
歳よ木伝ふぬるふの茅信
人ゆのぬ古宮所をのさひく 教長
なる迄 出湯の流ふまろう宗周
岩くむ流よ絶さ石絹と連歌
伏柏の庵乃ろ山あれ教長
るくに出てろと流の小萩原信
むよい風のもたなき暮教長
玉や形鞠の庭人行もん宗周
いつち家の清ふ白川政敦
越ても翼のあるに月出て牧也
それとろつ乃ろ信

あつきみる秋の山くに明るれ教長
誰ら先ろもふ家ふなん連歌
伏人形や家ろ流道の末清光
那ろ風のろ新浦水宗周
茅刈の引宮遠く里生く信
宇ゆ笛乃音ろ流の高敏也
月ろき秋不の秋や教長
玉ろろ木ろ家の玉砂地教長
交ろこ松の蔦紫をかさ指て政敦
網引の蛭や友ろ山ろ信
なるめや玉ろ家ろ流ろ宗周
流宮のろ秋や清ろ風ろ清光
一通りろて山流よ雨ろ風ろ連歌
衣ろろ不に苔の玉ろ風教長

汲引ふ、けつき毎の行ひよ都
世をのれはく侍る切り菴 政貞
あり合ふ玉ゆのもりるん信
若し〜あらと欲く義さ宗周
ゆ見玉形見ゆみもひやゆ数や
うたくはつの情くやしも連歌
ひ見つるあ見つ風さ文の内 政弘
命もきくよ侍ふ物やと都
裏〜舟の引来れいるれや 清光
日をつる猫いまる果るさ信
久も又波よくふ毎のと 政貞
気にきふ玉の意山 政弘
月も入花も猶や引くん宗周
うるあをとるあ乃池数や

意人の物てゆる意の船る信
折りひくい義くもしく 政貞
知しひ意うるれ市場連歌
分の隠家いくろやく宗周
九重よあれ誰ふうくく都
志のひをひとはせん 清光
ひる海神を深るい血の波 政弘
形る佛ゆ鈴るい小波数や
遠く来て不縁るるひさ 政貞
浪乃よ白き鳥いん志信
離も移やゆのて君を羽衣ん 宗周
ゆけき秋の月るるるく 政弘
今百ふれあふこるる銀河 清光
月れい悲しも云の紫九色 連歌

ゑ流やそのはゝ桜よ志ら〻ん　政景
う〻ろやる紀を何のゝ流る都ゝ
流きゝそ流る使乃ゝ乃ゝ信
かゝらゝえすやゝゝやゝゝ乃の袖　清光
河よる八度ゝ乃ゝ乃ゝ宗治の里　敦也
ちゝ志八又さゝゝ志ゝ乃花〻　連句
極志〻藤やう志ゝ乃ゝ　政負
のゝゝ小清し今日宗人　宗周

信之　十九句　連句　十二
清光　十一　頼香　十二
政顕　十三　宗周　十五
政負　十一　良親　一
敦也　十

正月十八日　頼香

薄何　第四

下水の底ゝきゝ多や夏木立
流よなゝよる岩の卯花　宗周
都ゝゝる川ゝ志ゝ船ゝゝ　敦也
小夜ゝゝ小のゝゝる山ゝ家　清光
月ゝ見ようゝる夕日やうゝ　信
すゝ野の原乃月すゝ也　政景
分ゝ河ゝ河ゝ屋ゝゝ志ゝ鹿の影　政負
生ゝゝ小ゝ乃ゝ夢ゝ　連句

かつくも色の萩乃枝つきて良親
枝も葉の玉ぼすめる数
御稜門うさの神乃言ひて宗周
波も深くく風吹る新宮数也
花つ枝く枝よ宮やみてるん清光
しるしいきき末の山辛信
ひとりもいつこの里にわる雨政貞
降くくなる雪乃異弁政貞
人尺ぬ田の原になく鶴連句
神やもいつたに鳴の川流宗周
拍すこ紀浦色乃梅月もて新宮
聖乃神や家をとくく清光
かの枕明く清むる花の陰数也
旅移ぬ行る春乃神垣政貞

なつきみる玉鹿の景やうもん信
夕ふきいくる西新山風連句
千ち年く神の波る紀浦伝政貞
月いなる春末孫さてい光数香
衣を三河る風の春ことな政貞
ますけ春思ひ胸よせ風わつ信
いてえよ云も春ぬ家れ宗周
春ふも深き立ぬうき数也
角乃い義はるる契くく清光
枕するうもみ夜れ月政貞
数の声も小家の夜やとまん信
信うちれ小竹乃上を戸宗周
春ぬ波や渡うめく麻家連句
風を分新末乃山人政顕

雲の巌谷よりいやうさひとつ移る秋
就乃のかけの水上の閑信
世をさそふ嵐ふかつかたにゆゝ下て宗周
月を伴ふ蛩のさしも深清光
行嵐しく松の木陰い秋浄 政貞
えゝひとゝはや野(の)の虫乃連句
移る葉の道い寂寞に敷也
人も彩をぬたのはまの屋頼名
よせもさきにはや余所わるゆん信
論しぬ清のやゝ宗周
一向の法衣衣よ月もかく政貞
勢かゝもに樒をそつむ政貞
大法えや行月いをとゝ花盛き名
横川の奥乃清ゝ佐信

紅ぬるゝ又ゆゝ水の音宗周
雪よ国中の睡佐ふゝ敷也
岩ゝ多ゝ月にせきやゝ別ゆん清光
うゝ松ゝ清藻のむゝ政貞
前栗い拾ふ安きゝ木陰に移名
こそつゝ千筋の家ふ佐連句
玉ゝ月ゝ寺乃月ゝ嵐信
滝よなみゝ名(の)ふ宗周
ゝ手ゝと行秋ゝ政貞
化ゝゝなゝかくおゝん清光
うゝ名の袖ゝ名ゝ敷
いゝゝゝゝゝ清ゝ移名
ぬき拾ゝ名の法ゝ古文書家周
雨やゝゝゝとゝ鞠の庭信

つれづれとよむに堪へぬ奇の反　政景
春の日のながきに花を惜しみやる　政貞
くらぬかしの世にまつ人ぞ恋しき　信
くれ竹の節も春やなかるらん　宗因
菜子をもめて郷をむかへる　連句
春をまつ百姿の門数や
糸竹の調れ音いかに乱るらん　清光
しづ乃刀出いかに白雲　政景
見あくれば空もうそうてくる青野山　彩考
翠みそさしに春の帰るを　信
秋風も八重の梅をおこすらん　宗因
月もてやあの里の冨に連句
涼きの彩陽の池に政貞
夏くまれ若竹の緑　頼者
五月雨の名残り書さ園の門　政顕
くるつさ麦を田を分山後　宗因
刈ぬもたこひつせる高氏に　信
棹のひかるくさ次第船　清光
芦鴨の波よつ風やさくん　連句
風音する昼陽の池　政貞
月新に松原こそ誠の宮　数也
故のくれ山ふうす寒　政景
永宿を分にむ計りて　彩者
ゆくさくめ差やとくん　信
夏れ巣ちふ鳥　宗因
我ゆ中をそ次行のそ　連句
袖のふ塊の道や細くん　政貞
前ふまれ橋ふくる数也

いつたゆたはぬ所清光
みるまもまつる恨敷 頼香
物のさまいとあるまもなき客人信之
うろ花ちるもはるみまもなく政員
散ぬるかぬ酌かはしぬる去年小数也
上中下も花の宴 宗周
太平はとてうたふ山吹ぬるとし連句
蓮行むしん寄む道のへ政員

頼香 十二　政員 十二
宗周 十五　政員 十二
数也 十一　連句 十二
清光 十　良親 一
信之 十六句

正月十九日

何代家 第五

政員

木花年流れそのうつり涙
宴こうまてていそく灯 信之
秋ぬ来ぬ月ぬ山ぬ宗周
ちるしらぬ月ぬ山ぬ頼香
明るぬ川ぬ色ぬ清光
日ぬ色ぬ山ぬ町田の原数也
行ぬ末ぬ物ぬ連句
竹の林乃風奥ぬ信政員

人もなぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ霜のうきたる　良親
あるかの雲やうく[illegible]　改貞
氷はてい行[illegible]のみれ面信
小草の中に芽そうらさ　宗周
幻的もやせる里の一くま　都名
鄙の[illegible]の乃世かつ花　清光
[illegible]　俊也あぬ永滅数や
云ふきりのこ[illegible]中立連句
[illegible]の[illegible]果く　改貞
いつきゆき胸乃八重霧信
[illegible]の[illegible]　宗周
[illegible]　俊貞人　都名
陰奥の[illegible]　改貞
[illegible]　俊也

時ゝ雲の行[illegible]　清光
親よ[illegible]　宗周
胡夕[illegible]　信
[illegible]　九乃[illegible]　改貞
[illegible]の[illegible]　連句
[illegible]　改貞
[illegible]　都名
校遠[illegible]　信
[illegible]　宗周
[illegible]　清光
[illegible]　俊也
[illegible]　都名
[illegible]　連句
[illegible]　改貞
[illegible]　都名

一時雨すぎて行は秋又くれ信
行の名をもうの歌にうの宮
やしむらいはやし紀つの小車に連句
名のうやうねしらぬ人 政孝
雑面いとうとも思さ葉うく 政貞
うこうして又独そそうあ数也
うねさの女れいいうはん 彩書
うれやこうこうしうかし 芳信
花の幸に紀の宿を忘れ 清光
永日しいさ詩をうう 孝句
刈の色嵐や霧れ 宗周
浪小三こてゆる 政貞
芦竹の紫うれの 芳信
やうらやうる家鳩の 宗周

軒近く龍るうぶ夕れな 政孝
嵐の風もうる家の山 彩香
まするれう野萩やうて 清光
あちうきぶ東の萱原 清光
三すうれ者いをうう 連句
月をうる家岩のうる海 芳信
打魚一世の庵や芝めん 宗周
明日三てぬ月うる葉四 政孝
車風ゆうう紅る素夏 政貞
よう日衰浦の波数也
吹とうる風小うる沖 芳信
秋軍ういい誰のむうう 宗周
多振祥の酒うう清光
祭の場乃河そ動きる 連句

明るより往還とゞきまる時雨　政景
神うちそへて木葉つむ高　政貞
暖小日和いうつる秋はくれ　新者
雲を落くれ水合な霧　信
際も白き雲丹まる光代　宗周
心をさまるものやまと云のし　清光
秋ちんとさふえいの多る出　数也
ふりふる髪れ浦ちもあく　政景
掃きてハ生つきまる信の　連句
深き園よや神をとゝせる　頼香
春のこゝの面も同し神の春　信
月ふむし秋和歌　数也
さまるつる花も胡蝶の夏中　新者
しほうもしよりつるまゝ世の秋　宗周

三月廿三日御ほけくきん　政景
別る屋孫の松しをれ　信
ともすもゝ急ひうちの学て　政景
ひるを双紙の赤おはつる　連句
けもひさ心ゝ三月ゝ　宗周
長とゝ山も中やあもちん　新者
色そや紅葉をひとすゝ　信
三室の山ゝそかあき風　政景
林さ秋さ松ふゝ乃庵の声　清光
野寺の鐘ゝやゝきれ　宗周
月小ゝ高ゝ高ゝ新やけ　連句
きの小今日ゝ月めけ里　政頂
ゝ新ゝ秋ゝ残ゝ焼の新　数也
国の赤ゝ世ゝたのめ　信

年〇めぐる市女やぬきもすそ乃ん彩雲
一向り入江ろ寺ときき清光
暁をまつ程こそ見乃ん宗周
市こうて汲山の井乃れ連句
家のこうかよ石ゑ眞ゑし政貞
かゝ事地を白浪道の一をち政敬
みゝ花ちつの乃ふ苦乃ゑ信
緑の多も立ろひゝ松数也

政貞 十一　数也 十一
信之 十六句　連句 十二
宗周 十又　政顕 十二
頼香 十二　良親 一
清光 十

正月十九日　数也

何田 第六

小清ゑ河孫ろ移て見ろ入日かれ
秋の野うつゝ庫乃初風 政貞
ゑゝうつ虫ハ離よあつまりて 連句
玉ろふ家や堂を深もゝ 宗周
急雨の江ゝつなる月新 政敬
ようすともるき池のゝ波 清光
萍ハ茂れ水もまれ水の色信
我ゝよめく蓮のゝ紫清も 彩雲

輝の色も清かの影の郎良親
山のくまへやかくれ敷也
林やわくせる表の清つ〳〵政貞
名り書りのこ汾松陰連句
鳥色野のそれきを訪て宗周
ゆくしかあれよいつまく政影
百夕度つる恨のくまみよ清光
なまひゆきわてるはる夫信
白あたかくる心いなのやるや影者
得いとけやくしうき袖の寄政貞
月もて同ぬ枕の歌〳〵敷也
いや冷〳〵き苔生乃宿宗周
みもくりき苑の松を思やう連句
えやい寒ふんうつを唐士清光

吉風も列〳〵き庭の芳ひよ政影
親小仕〳〵る月くまて影者
学ひめる道やひとつよみ貞信
ゆくれるわけるの寒のさ海く連句
こうて海れ位るくさむ吉信宗周
かこちるくもなくる次風琴敷也
末きとの松をむるくる夫文て政貞
いくか玉ろくるひ乃表政影
老や行者も秋を忘ん清光
又くん事もいさやく勇信
形色せる紫の陰の森乃袖影者
夕乃月をうる行星宗周
陽ちかくおれい景さ風株連句
宮みくく波の川つる政貞

何ゝる舟の綱を引信
大井の里ゝ初ゝ清光
同ゝ安ゝ似ゝ私の声政敬
物ゝひゝ碑歌書
武さゝ功人ゝゝ家周
敷ゝゝゝ弱ゝゝ連句
ゝ野ゝ業敷也
道ゝ引ゝ信
雪ゝ遠ゝ政貞
家ゝ里政敬
答ゝ欲ゝ政敬
ゝゝ男ゝ信
ゝ根ゝ家周
ゝ奥ゝ敷也

雪降る山の寺ゝ夕京ゝ清光
宴ゝ浦なるゝ信
舟ゝ連句
ゝ政貞
ゝ信
ゝ政敬
ゝ家周
ゝ敷香
ゝ家周
ゝ連句
ゝ信
ゝ政敬
ゝ信
ゝ連句
ゝ信
ゝ敷香
ゝ信
ゝ家周
ゝ政敬
ゝ連句
ゝ信
ゝ信
ゝ敷香
ゝ家周
ゝ信
ゝ風
ゝ家周
ゝ頼香
ゝ政敬

冬の日の雲かゝるとゝ[illegible]佐保の内政貞
枯る柳乃陰くらしとゝ[illegible]信
伊勢をくり別れ園百て宗周
姉をしたつて後[illegible]ろ[illegible]ろ 数也
みやこ[illegible]奈良野[illegible]の里連句
[illegible]ゝ[illegible]に馬[illegible]れり 宗長
紅葉やこの[illegible]とゝ[illegible]集ん信
[illegible]そひする夜の日[illegible]宗周
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]て清光
砌乃[illegible]ゝ[illegible]の時信
[illegible]ん 政弘
[illegible]ゝ[illegible]政貞
後蒔の種をもたゝ[illegible]宗周
月小[illegible]ゝ[illegible]芝草 連句

初汐を汲て焼なん塩竈よ 宗長
[illegible]す浦人 政弘
破山を越つゝ[illegible]て信
家[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]や宗周
[illegible]ん 数也
[illegible]宮の[illegible] 清光
[illegible]奥に[illegible]て政貞
調[illegible]ん 宗長
[illegible]に連句
四[illegible]信
[illegible]貪て宗周
[illegible]政貞
[illegible]腦の月清光
[illegible]政弘

[illegible]を比秋もうつ[illegible]　政貞　連句
今やうつる[illegible]衣ぬ[illegible]
思ふ[illegible]梁瀬をちかの[illegible]　頼香
[illegible]をひ[illegible]
雲[illegible]　清光
吹[illegible]
[illegible]夕の[illegible]をいふ[illegible]　政孝
[illegible]
[illegible]　信

数也　十

政貞　十二
連句　十二
宗周　十五
信之　十六句

政孝　十二
清光　十一
頼香　十二
良親　一

四月廿日

御伺　第七

清光

秋の[illegible]を[illegible]ぬ山[illegible]
[illegible]に列る庶の[illegible]　宗周
[illegible]や[illegible]ん信
[illegible]　連句
[illegible]　政貞
[illegible]の[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　政孝
[illegible]の[illegible]　数也

誰行て深谷の道に後ろん良親
高山木の葉ちるまく立みの清光
しめ〻の国の東〻ゆきて宗因
波を見せぬ川下乃秋信
鱸や佐ゆさ方小深ん連句
大井のわたりに新米〻政貞
しら菊の色のお山を後越く彩香
嶺ふたし雲のうらく政房
行先よ翅つ〻稲〻乃数や
秋寒に成く風吹出る初風信
明石浦や吹出る初風信
むさしあ〻ぬや松の秋風連句
入舟のひきに成る波浦清光
青き〻さしの古寺のお彩香

二月の月をとゝ〻ゆるに政貞
送る引船やうすむ夜の戸数や
〻〻三酒の席よ高めて政房
よやうやうに京の京〻信
右たゝとみわ〻絵合て宗因
ゆ〻すの扇の風かほるや清光
三舞八合やすき浦〻連句
夕よ秋の胡蝶花移く政貞
夕鳥山附よ羽を休む彩香
道小ゆ〻ゆる宮ひ〻ゆ政房
陽をもうけて行る宿風信
同じ〻四〻清水山里宗因
山蔭よ彩蔵そよ〻れ清光
橋のうら〻知人〻しゆ連句

玉川野や馬に鞍をおもうん政顕
継尾しら尾の雪何の袖都春
度くるつれい捧げ雪 數や
越の旅路や立ちこめらうん信
漕ぎ出ぬ湖の海ぬく風を雲 家園
舟やうき藻の下よりつる清光
水の面よりつるまれる政矢
家よりも家より月やもんん政顕
清雪ぬれし湖の秋の連句
秋の秋乃ちるめすくるき家園
鶴や玉よりうけるる新ちるん信
近き山色ぬ入日のくら數や
花つせむうん法院ぬ新宿家園
霧よりも法ぬ乃ちる連句

上人のもとつる桐千に都春
ひつるさるめや神の御社信
殺しする風清けき石清水政顕
あつさを凌ぐ山陰の道政賢
一村の林よりそ蟬の声清光
松の屋乃法ぬ都る家園
法乃宮ぬ月と清るて數や
月まるおぬ都筋くる毎都春
ちるさ浅遠る秋の新やぬん信
世の新しぬ乃ぬれの秋政顕
見るる法浦の住屋の烟ぬ連句
風も吉せぬ松法乃波數也
ちるれい宮城ぬ原ぬ明ぬ家園
茂るも萩の本あるや信

夏のつもりにつれて落ちそしる政貞
牛引つる里の中みち連歌
なるるつゆ草ぬれてそ頼者
名も紀波ひ神よりけりや宗因
我恵や樽を後ろ負ひん信
つきぬ波のつゆ迄清光
回ぬしいかりたる陸よ政房
見し浦草の紅ゆる政貞
月文る唐のもつれ秋の霜 数也
陸冷しをるれる垣うち信
銭のめうを織出の言も絶て宗因
衣ゆしぬる風八重さし 彩香
言ぬれ花の衾をかつ松信
香の数しあるぬ梅の下道政房

往昔の言なつかしき雑俳連句
煙よりむこうなるき屋より宗因
をうぬ尾上の里ハ雪つて政貞
文をうしをれ宿の数也
誠ちるゆんゆ乃言つれ清光
流さきめるも限あるを彩者
秋を分麻の木綿て言ひて宗因
ちるとの風よ及ぶなる信
打絶る塩屋の数ふまるのちりつきの新清光
問なもとに秋をや惜むん彩者
よこかるめるこの紫紙政貞
おるその袖とともみる菊の文宗因
わるもし今乾の庭のやす風連句

いさるゝ土色紅葉もゆるし信
人めの関いふよくらん清光
逢坂の山いかゝ入さ千政貞
さゝしけよ弱の下の苔敷也
水くゝ来ハ多ケき小石原連白
所〳〵に散らよく村篠宗周
芳野る花ハ消き木陰ハ政孝
澎夕京花ハ号乃声敷

清光 十一　頼香 十二
宗周 十六　政顕 十二
信之 十五句　敷や 十
連白 十二　良親 一
政貞 十一

正月廿日　宗周

一字露顕　第八

月無ふ今秋ハ明石浦
夕寒ハ浦の遠さ也敷也
山越ハ月の翅ハ羽ハ敷
小田ハ夜ハ行よ行ハ遠信
稲ハ刈ハ月ハ行ハ連白
砌の野ハ月ハ行ハ政孝
立ハ道ハ海ハ星離政貞
慌ハ吳竹清光

みち遠き川一筋やくちうん良親
潮の落ぬ分ぬ江ハちるけし 宗固
友落れ下てや水食こうこ牧也
ゆる田つるよかのつるもあき 教香
秋末ても風をふしぬ柳 信信
門を閉めて高いとうも 連句
立ぬて月ぬ蓄の面ぬう 改貞
さひしちぬくなく独居 改貞
むらをもさふあるれ山の奥 清光
ぬとめて入小野の細道 牧也
いつくふう鹿子のつ木ぬん 宗固
茂りいおれし赤の芋 村信
紛れぬ蓄れ枝れ枯れ 教香
同音といひ蓄のまま入 改貞

紫苑の常ふあるやぬう乃連句
義ある他の冊乃そか毋清光
雨結て玉乃階なく家ぬ信
星まつる秋の夕紀つと 宗固
ちやぬ月や酔をすん牧也
ま世の間ぬる蔦のき世 教香
えたいなる蔦ハ高ぬ系 改貞
おろて得ハの風ちる文 連句
みるくも物蔦乃面ぬて 清光
わきい言の つる屋れ 信信
末細き覚い杉て言ま 改貞
俺しさらう奥の隠家 牧也
花よくて寺ひきみれ 宗固
年後もあれぬ帰る屋 改貞

つまをかけ緒琴の音を聞者
ひのすもの杉のくもとの秋の月
数度くゐるかりの聲 法光
山田のくもとの市人 之房
はるかなる安信の山の雪 新信
秋の霧はれて旅の庵の夜 政矢
林風乃さ枝の葉さやぬ 政や
軒もる月の物たりなやう 教者
欲をもくさめる月きりの 教孝
蓮もくもくるこのくれ野 連有
ありかをいたに宮めぬ傷 孝房
うつるを分よよむ山ちく 信
川岸の梅の波と新て 政矢
青柳のなるや桃の 源宗房

家をや神のなるめ敬めん 教者
むうるもれ出るを家く 政孝
京とも高るい形のつたて 連有
少女の位乃ぶつつや 政や
唐おく約する毋の江を 信
形ゆかのくちるを不 政矢
出るのをにはめる不二の岩 法光
のあれいるのよ 昔柄の山 教者
はく枝よそけられる 孝房
夕の枕いちるを 連有
うれめの紀を 政孝
春名より身をやうら 信
零落神よりの 教者
をれもつるく 孝房

杉苔の青くこけ乃景色よ数也
ゆくとつるよりひろくなる政孝
先ゝつを立ゝ後のと深と信
役しあゝぬ老乃ゝうゝ清光
いとゞ紅の中ゝ立さうみ立
わすれうれ思ゝうゝ政貞
あゝさしもあを友ゝ友ゝ連有
知ゝゝしそ花よ海ゝ連信
集ゝて小島嶋ゝ園乃内彩者
霧ゝうゝしなゝ紅ゝるみつく宗周
枕して夜も山ゝ色ゝまゝ政貞
夏の外なゝる光ゝ乃月連有
回ゝれゝ庭よゝゝゝ影の音信
ゝゝ杉風の弱ぬ古ゝ彩者

分て入ゝゝゝ泊瀬ゝ清光
夜ゝを泊ゝ面ゝゝ度数也
わゝ京の遠ゝ風ゝ凌ゝ政孝
文ゝつゝゝゝ榊ゝ政貞
前ゝちゝゝて云ゝ宗周
諫ゝゝかゝゝ君ゝゝ信
愚ゝいゝゝと思ゝ家の風連有
鶴ゝおゝゝゝ月の梅ゝ枝清光
心ゝゝゝみゝゝや宮の色乃宝彩者
彩ゝのゝゝ黄ゝの杉政孝
立初ゝ行の林乃寸庭信
相ゝ後ゝ栖なゝゝ夜ゝ宗周
ゝゝの毋ゝ急ゝ吹ゝゝ政貞
ゝゝ池の夏ゝ連有

きよ海そる文殿や清ゝ見 宗因
半ゆゝ月ゝ也 二 遠野 松香
行春すゝ行 知ゝ 雀ゝ 數や
春とも す へ 道 後ゝ や 信
花根ゝ 嵐 か こ つ 詩 乃 ゝ 政敦
家ゝ も 消 ゝ ゝ し の 意 政貞
灯 か ゝ け ゝ 言 や 惜 ん 連 句
きけ ゝ ゝ に 問 ゝ 物 の 言 清 光

宗因 十五　政顕 十二
數也 十　政貞 十二
頼香 十二　清光 十
信之 十五句　良親 一
連句 十三

正月廿一日

初何 第九

連句

出る日の影や霞の根の浮時 政貞
雲ハいつ地より風さ移る山 信
桟も末の木義に埋 清光
言ゝゝ乃末の川 水數也
みるゝも毎さ 禅乃 宗因
旅こ川ゝを 遠ゝ 袖 松香
蕾海 紅の 月 政敦
桜 乃 声 ゝ や 政貞

八幡宮やあの山の麓と流れ良親
里のあの里ハ[illegible]朝風連句
かすみもなきを絵の道乃素信
雪より伏猪乃沈を遠く清光
遠くの行るひとをとる信深を敷也
船をなを言〳〵枕をやせん立周
ちらくと越来山ようとの風物言
刈やなを朱も神ふすなき政貞
名を近き筏の底乃言の林政貞
きけそ四乃時の雅なき信
月文てをを安〳〵ぬ接続り連句
五〳〵〇〳〵る秋の家の宮敷也
奥山の毛遠宮なるを清あ立周
なるこもやく〳〵ぬ宮あしの水物言

雲海のふ[illegible]ものうと紹の清光
翠やとをさ船色の初雪政貞
夜〳〵こあるを産の音風政貞
明るるれる末の篠を連句
乃わるせい家の法も白あ信
光を主ぬを為るを玉川富周
新宴を恨不の月乃新朗敷也
松り海〳〵海日ハかすうや政貞
沙言いをまを三の岸言こ物言
旅のまくさやかふ郭五信
草枕美もむすぬ暁了政貞
あをそをの道ふ月を清光
をそくハ石の博士も眼遠立周
貧〳〵を成〳〵すく世ぬき敷や

数ますらんゆうわらにまさつれ連句
ひとつ長うる鈴しをも行宗因
ものの月行の長行下すき千信
雪も板ゐをとり月の多 松書
林の色乃は芦考方行の実政弘
波よりの色乃以色次〳〵政貞
夕汐の満来てひるゝ砂地よ清光
葉やゆく帰る芦茨 連句
傍も田つやゆよなんん 敷や
畏色よひく〳〵雷乃音信
神さるる白羽の矢ゝあやゝ孔宗因
よるるぬさ社ゝ行政弘
見ゝる花い色未れ枝村よ 政貞
袖を凌く布引の中道 宗因

立と雨ゝ稿たゝ〳〵立乃書松書
花いつれの浪よりかゝ 敷や
はしのりる三日月鈴無死信
移る景ゝ残いゝ草 川清光
庵の日ゝ色の稜うす霧ゝ宗因
松の扉いひゝかのゝめを政貞
村色の蘆の原よる新〳〵連句
冬も蔦稲乃のゝるかゝ信
小蔦や松ゝにも戦ゝん政弘
雪すゝ後砂ゝ見宗因
行すゝ稜を晴る伴ゝ清光
さゝ雪や日出ゝ松書
限ゝ色ゝ満を初ゝ信
つゝさゝ詠ゝ百せゝ連句

九重や市調の河ほとりに敷や
服ひるがへる氏乃里〳〵 政弘
ひのめ武氏神の森にて 政貞
今朝まで庭火焚滝の清光
戦ひやゆゆしもたうる人 宗周
直うるうるし世のまつりと信
かしこしそはたるうるし枕すれ 繁香
ひのひ思ひめる妹と背の中 敷や
なよすがらおろ〳〵紀物語 連句
枕をうるうして行鈴ならす 政貞
みうしい犯さぬ罪乃憤り 政弘
ひのくを月も天地もしる 宗周
言葉の枝や紀の成ぬん 信
表を問ふる友ないうるうき 連句

[illegible]する海ぬ文ふに 政貞
心ををうるいとむみさし 繁香
足初しいとものうるき海して 政弘
花ぬるを衣もうるよ出し 信
上人やいひうるての前渡り 宗周
る海めく笛の声ろあやうき 清光
つうをうるひうるたる小雨と 連句
酒砂すて月の下沖 政貞
初紫をめてうるて枕敷也
夕やうると男鹿ゆうる 政弘
霜のうる風の吉も吹かも 繁香
みのしろ衣いうるるうるる 宗周
ものうしをうるうる旅人 信
夢のうるうるうるうる山道 連句

[illegible]や又[illegible]政[illegible]
[illegible]て[illegible]
夕風の[illegible]
池い[illegible]
行[illegible]
折[illegible]
[illegible]
八十の酒乃神の往還[illegible]

連句 十三

信之 十五句　　頼香 十一
清光 十　　政顕 十二
敷也 十一　　政貞 十二
宗周 十又　　良親 一

正月廿一日　　信之

何馬 第十

笛行のよい心なる神い樂
千年の[illegible]や鶴の[illegible]綿政顕
[illegible]の[illegible]松の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]

山風のたゆたひくれかたの月　良親
異さとなりまさりて夏よりもそ信
俤ひ〳〵道をも急く旅の袖　政景
こゝろはかれ文うきてゆく雁
都なる使いかよひぢうん　政貞
ゆくされもなき中ふくる清光
此庭も石そ苔の落葉　連雪
さ沙勝ゝ玄乃玄の数や
のとけくも硯よむ朝　鶴雪
いなけなきさよ三日月　政景
こゝろそ秋ゝ雁　信
詠ゝ清ゝ宗の中　政貞
月雪に山の里　信
いくゝ年迄ハ移ル川　連雪

岩ゝ苔ゝ朱葉の朽ん清光
四ぬ去ゝかくれ家乃ゝ都雪
行ひもおゝ学ゝ数や
強ゝやゝ此法の人信
浮ゝを只一節のゝ政景
いふ沛ゝ乃すの下風雪
ゆゝ苔野の奥ハ涼ゝ　政貞
くれゝゝ波清光
武士の拂ゝ笠の雪連雪
日をきそめてやハ厳化数也
国雪く暮ゝ世や信
数ゝ二万の里人　政景
尺後せ廣さ国ゝの所ゝ雪
鄙の庵やいつゝ政貞

為くのうち拾るうちみてきを合歌書
をく宿さして姫かまの家信
道命と法月に立てに言伝清光
やくわるをいそれうあるぬの宗周
も添てきけてあや沈地うは政弘
滅るさそかしめ琴の言連句
うきるうに忘れ立田のそこれ数や
うの宿ちをなれあるを里歌書
又月毎月をみてる旅の元政貞
かいの後るきしわくく毎政弘
清来るそ涙も暮る境川信
めつうるれや多きを所清光
ゆく遠く咲つもの故をよ立田
神くかさしや清くく夜の枝数や

明石よりは立うし月の文歌書
よそめを浦くつむ通ひ所信
雲ちも家を忘れの月の元連句
到ぬうち屋の住ぬ繋ぎ文政貞
ゆ恋ふ世は成ぬ東う清光
同し苫葉を分むさて家周
拾の船あうの紀夕言数や
馬引入く戸伝をする歌書
末こうなの海さ苫文政信
道人あつてとむ山陰連句
紀よ来てれてこれ流の言政弘
蓋を行言乃立の新あ夢清光
年立ていつ月の船うよ立周
物う海を様うるものやう信

形つる社の宮し浅うく　政貞
ほとゝぎす覚れ契うきもしも　敷也
ゆひも不十の程と物る身に　教善
今はいきのつとをとゝのみよそう　宗周
出てたゝや船よりうる今朝のそ　連台
浪かけ夜うる泉川　政敬
葉とても下は松本よりを為ゝ　信
いつまゝくかくゝ遠る山かゆ　政貞
ゝる宮よ村のうゝもれ弱果ぬ　清光
ほゝもわうす行そのゝぬを　教善
沖国せも芦ぬる波乃凡絶り　宗周
こ海の波を乃風ろうきひき　信
る風にも松やうれる乃の声　政敬
波絶てほる浦の八を旁　連台

乃の絶ゝ宮の絶ゝ　政貞
神いゝゝるわたるゝぬて　宗周
思ふ身や鬼一口にも　ゝん信
ちるきゝのゝ人のゝゝら　清光
あひふえすも今かきゝし　教善
恨もえやい戸ゝしを章　政敬
神ゝゝ乃西を絶の間ゝ　連台
松ゝは丁ゝこゝ小ゝ　政貞
橋よ近き清水ようゝく　宗周
ちふあゝを絶ゝ　信
浦絶ひ清ゝも白ゝ義よ　教也
絶ゝゝ乃てゝ乃ゝ　信
芦の屋の遠乃月よゝ　連台
秋ゝを先ゝ麻よ小衣　宗周

[illegible]うゆ[illegible]ふいつ方ゑ[illegible]うゆ[illegible]清光
風も吉野の秋ゝ又[illegible]敷也
来度の[illegible]ゝ三[illegible]陶[illegible]雲[illegible]資
[illegible]ゝ[illegible]ゝ玉[illegible]の[illegible]連歌
[illegible]家も[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]雪[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]信
[illegible]月 二月政敦

信之 十五句 連句 十二
政顕 十二 敦也 十
家周 十八 頼秀香 十二
政貞 十二 良親 一
清光 十一

正月廿一日

青何 追加

良親

咲そふや三[illegible]ゝ[illegible]軒の梅
千[illegible]の[illegible]を[illegible]陶[illegible]長[illegible]
町[illegible]民乃[illegible]親[illegible]
山の[illegible]もひ[illegible]親貞
[illegible]せ[illegible]政友
風の[illegible]霜 正[illegible]
毎[illegible]秋の[illegible]朝[illegible] 後[illegible]
[illegible]武